



平成 11 年 4 月 2 日
日本原子力発電株式会社

東海第二発電所第 17 回定期検査の実施について

当社、東海第二発電所（沸騰水型軽水炉、電気出力 110 万キロワット）は、4 月 4 日から約 4 ケ月の予定で第 17 回定期検査を実施致します。
定期検査を実施する主な設備は次のとおりです。

記

- (1) 原子炉本体
- (2) 原子炉冷却系統設備
- (3) 計測制御系統設備
- (4) 燃料設備
- (5) 放射線管理設備
- (6) 廃棄設備
- (7) 原子炉格納施設
- (8) 蒸気タービン設備
- (9) 非常用予備発電装置

以上

1. 主要な工事

- (1) 低圧タービン車室取替工事

【概 要】 (図—1 参照)

・ 予防保全の観点から、第 16 回定期検査に引続き、内部車室を耐食性材料を使用したものに取替える。なお、今定期検査をもって車室取替は全て終了する。

- (2) シュラウド予防保全対策工事

【概 要】 (図—2 参照)

・シュラウド（炉内構造物）の応力腐食割れ（ＳＣＣ）に対して、念のため予防保全対策を実施する。

（３）炉内核計装（ＩＣＭ）ハウジング予防保全対策

【概 要】（図－３参照）

・ＩＣＭハウジングのＳＣＣに対して、念のため予防保全対策を実施する。

（４）補機冷却水系海水配管予防保全対策工事

【概 要】（図－４参照）

・平成９年１０月より実施しているカルバート（暗渠）化工事（耐食性材料への配管変更を含む）が今定期検査にて終了する。

２．燃料取替計画

・燃料集合体全数７６４体のうち、１８４体を取替える予定です。

３．運転再開予定

・原子炉起動・臨界 平成１１年７月下旬
・発電再開予定（調整運転開始） 平成１１年７月下旬
・定期検査終了予定（定常運転再開）平成１１年８月中旬

以上

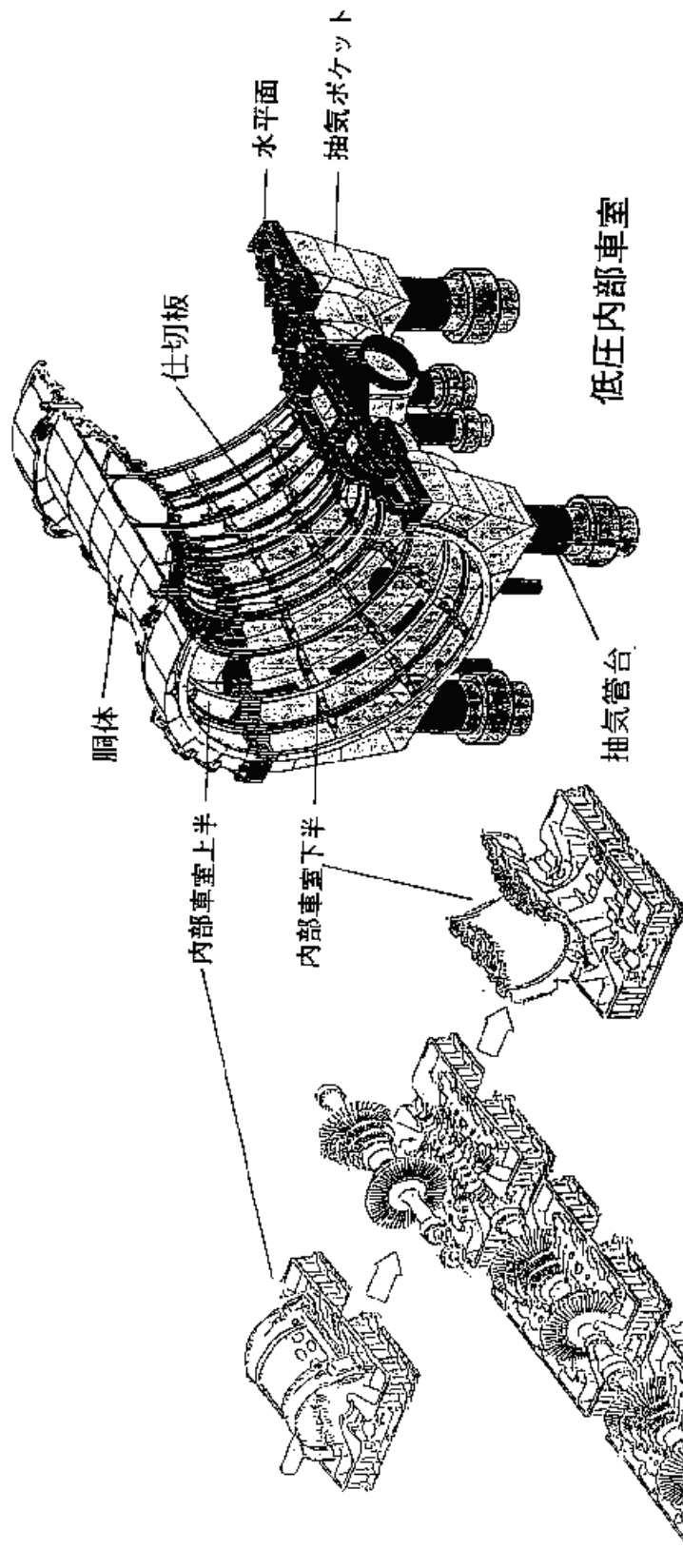
図―１ 低圧タービン車室取替工事

図―２ シュラウド予防保全対策工事

図―３ 炉内核計装（ＩＣＭ）ハウジング予防保全対策

図―４ 補機冷却水系海水配管予防保全対策工事

参 考 東海第二発電所固体廃棄物貯蔵庫内のドラム缶及び鉄箱の検査について



低圧タービン内部車室材料

取替車室	既設車室
胴 体	銅含有炭素鋼
水平継手面	銅含有炭素鋼
抽気ポケット	銅含有炭素鋼
抽気管台	炭素鋼

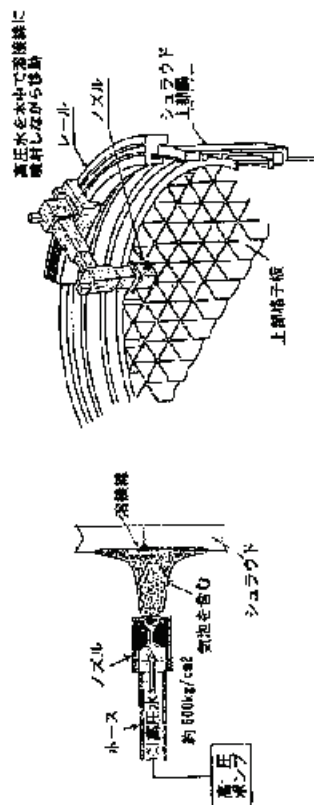
低圧タービン (3 車室)

平成9年度 (実施済)	平成11年度
B 車室	A, C 車室

低圧タービン内部車室取替範囲図

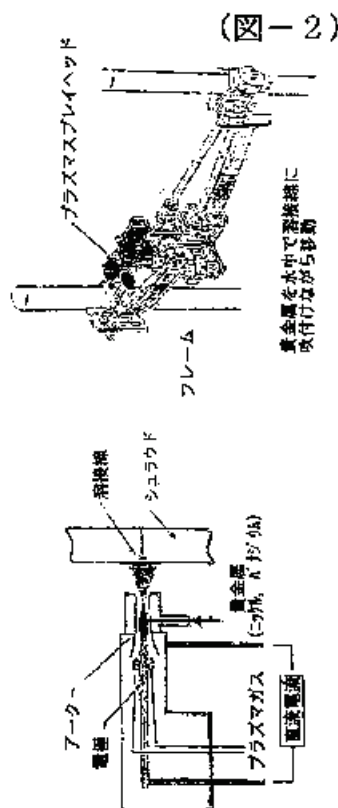
ウォータージェットピーニング工法

溶接部に高圧水を水中で噴射し、圧縮応力を加えることにより応力集中緩和の条件のひとつとなっている引張り残留応力を緩和する

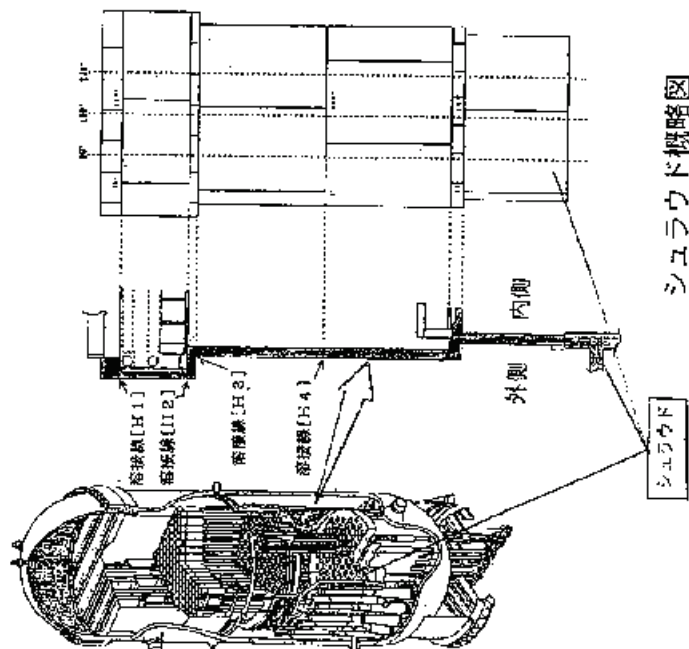


貴金属コーティング工法

溶かした貴金属を溶接部に吹き付け、貴金属の融媒効果により金属表面の酸化と水素の結合を促進し、溶存酸素を減少する

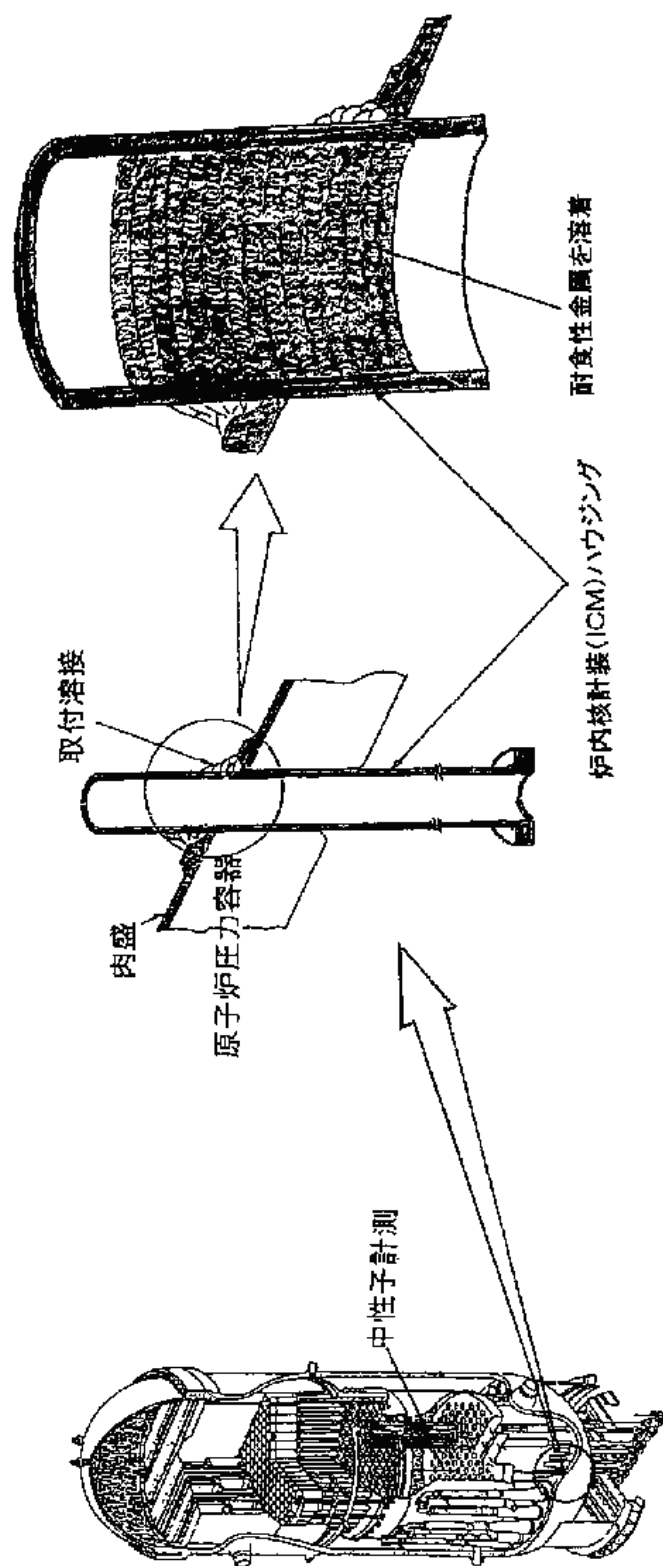


(図-2)



シュラウド概略図

シュラウド予防保全対策工事概念図



炉内核計装（ICM）ハウジング予防保全対策工事概念図

東海第二発電所固体廃棄物貯蔵庫内のドラム缶及び鉄箱の検査について

東海第二発電所では、現在、固体廃棄物貯蔵庫にドラム缶約18、000本及び鉄箱約5、300箱の固体廃棄物を保管しております。今般、廃棄物管理の徹底を図るため、本年1月から平成12年度までの計画で、順次、保管中のドラム缶及び鉄箱の外観検査を実施しております。

平成11年3月末までにドラム缶2,466本、鉄箱107箱の検査を完了しておりますが、このうちドラム缶43本、鉄箱2箱に発錆が確認されました。発錆ドラム缶については、従来どおり鉄箱に入れるなどの処置を行うこととしています。

また、発錆が確認された鉄箱1箱について表面汚染検査のため錆部分を採取布でこすったところ、錆部分が剥離し内部から水がしみ出しましたので、他の容器に詰め替えの処置を実施しております。なお、しみ出した水には放射能はなく、作業による汚染もありません。

今後の検査においても、発錆が確認されたドラム缶及び鉄箱については、必要に応じ詰め替え等の処置を施すこととします。

以上